



～義務教育学校設立準備委員会ニュース～

美和保育園・美和小学校・神戸小学校による合同学習を実施しました

- 6月11日(月)於:美和小【1年生:体育・学活／2年生:国語・体育】
- 7月 6日(金)於:美和小【1年生:国語・生活／2年生:算数・生活／3年生:道徳・体育／4年生:学活・外国語活動】
- 7月 9日(月)於:神戸小【5年生:社会／交流給食】
- 7月17日(火)於:美和小【6年生:学活・図工】
- 10月18日(木)於:神戸小【2年生:学活／4年生:総合的な学習・外国語活動／交流給食】
- 10月25日(木)於:美和小【1年生:学活・生活】
- 10月31日(水)於:美和保【美和保育園きりん組と美和小・神戸小5年生との交流】
- 11月 8日(木)於:神戸小【3年生:さくらやまマラソン、発表(音読・社会見学・ダンス)／交流給食】
- 12月13日(木)於:美和小【1年生:生活／2年生:生活】
- 12月17日(月)於:美和保【美和保育園きりん組と美和小・神戸小5年生との交流】
- 12月18日(火)於:神戸小【6年生:鳥取市役所職員による出前授業／交流給食】

各部会の報告

「すごい！学校創造部会」

めざす子ども像「自ら学び、豊かに表現する子ども」「思いやりの心もち、進んで人と関わる子ども」「心も体も健やかに、たくましく生きる子ども」を受け、「交流」と「情報」を特色ある教育のキーワードとして協議しています。

- 多様な人やモノやこととの交流を通して、進んで人と関わり豊かに表現するコミュニケーション力を育成する。
- 地域との交流を通して、豊かな人間関係を築き、地域の伝統文化を継承し、ふるさとを大切に思う心を育成する。
- 地域での交流体験の積み重ねで、共生社会をめざしたまちづくりについて考え、自分自身の生き方につなげる。
- グローバル化社会やAI(人工知能)の時代を生きる子どもに必要な英語やICT(情報通信技術)を使った双方向のコミュニケーション力を育成する。
- 超スマート社会に必要な力とスキルの育成

「教育環境整備部会」

「長寿命化校舎」への改修で新しくなる学校施設の教室配置や改修工事に伴う仮設校舎について検討中です。また、校名・校歌・校章の制定方法を検討しています。

- 新しい学校の校舎は現校舎を長寿命化改修し、不足する教室を増築
長寿命化改修工事期は仮設校舎を使用する。
- 仮設校舎(建設場所:校庭)
- 校名案は公募により今年度中に決定予定 ※詳細は別紙「募集要項兼応募用紙」をご覧ください。また、「募集要項兼応募用紙」は神戸・大和・美穂地区公民館にも設置してありますので、そちらで受け取ることもできます。
- 校歌・校章は来年度後半に決定予定

「江山の宝応援部会」

通学方法等について、協議しました。

<通学方法>

- 2019年10月頃までに日ノ丸バスにダイヤ改正を要望
- 中学生の自転車通学区域をどうするか？
中学生の自転車通学区域と小学生の徒歩通学区域が重なっている地域の通学方法をどうするか等生活時程や部活動後の下校時間等を考慮して決定する。
- 進捗状況報告会
12月10日(月)美穂地区公民館、12日(水)大和地区公民館、13日(木)神戸地区公民館で開催しました。
- 意見募集のため、「意見・質問ボックス」を各地区公民館に設置

義務教育学校Q & A

小中一貫教育のメリットはなんですか？

文部科学省によると、小中連携・一貫教育の取り組みを進めているほぼすべての市町村で成果があったといえます。具体例としては、

- ・中学生の不登校の減少
- ・学力調査などの平均正答率の上昇
- ・児童生徒の規範意識の向上
- ・異年齢集団での活動による自尊感情の高まり
- ・教職員の児童生徒の理解や指導方法の改善意欲の高まり

などがメリットとして挙げられています。

鳥取市の各中学校区でも、小中連携で教育がなされており、江山中学校区では美和保育園を交えた「特色ある江山中学校区推進委員会」のもとで、学校・家庭・地域の3者が協働して共通した「めざす子ども像」を目指した教育がなされています。

しかし、小中連携教育はそれぞれの園や学校がそれぞれで目標をめざしていくもので、保育園から小学校、小学校から中学校への円滑な接続をめざすものです。

それに対して、「小中一貫教育を行う義務教育学校」は、一つの学校として一貫した系統的な教育を行うことで、小中連携よりも教育効果があります。ここでは、小中一貫教育のメリットを活かして、江山校区に設置される施設一体型の義務教育学校のねらいについて考えてみます。

当然、メリットがあればデメリットもありますが、デメリットについては、その対処方法と合わせて次回考えていきます。

江山地区に義務教育学校を設置するねらい

ねらい 1 子どもたちの学力を伸ばす

- 9年間の連続した系統的な学習で、学力を高める。
- 子ども学習状況(つまずき等)を把握して、学習指導に当たる。
- 学年の範囲を超えて指導内容の入れ替えが可能になる。
＜例＞中学校1年数学「正と負の数」を小学校6年算数で前倒して行う。
- 教科担任制を取り入れ、より専門的な授業を行う事によって、学力を高める。

ねらい 2 子どもたちの不安を取り除く

- 教育環境が変わることから来るいわゆる「中1ギャップ」等の不安を取り除く。
※「通い慣れた学校」、「知っている先生」

ねらい 3 異学年交流活動で自尊感情を高める

- 中学生は、低学年に対する思いやりの気持ちが育ち有用感が高まる。

ねらい 4 良きモデルと憧れで規範意識を育てる

- 年齢差がある共同生活で子どもたちの規範意識を高める。
- 低学年児童が中学生に対する憧れを持つことができる。

ねらい 5 多人数、多年齢での集団生活で協働性を身につけさせる

ねらい 6 多年齢に応じたコミュニケーション能力を育成する

ねらい 7 地域を思う子を育てる

- 江山校区に学校を残し、地域の中で子どもを育む。
- 地域の人達と交流したり、地域教材を学んだりすることで、地域の良さを知らせる。

ねらい 8 地域住民がこれまで得た経験や知識を活用して、積極的に学校に関わることで、地域の活性化をはかる